

第 39 回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2016) 予稿集 原稿様式

How to Write a SITA2016 Manuscript

SITA2016 事務局*
SITA2016 Secretariat

Abstract— This document provides information on a SITA 2016 manuscript.

Keywords— SITA2016, L^AT_EX, style file

1 はじめに

本稿には, SITA2016 予稿集の原稿の作成・提出に関する情報が記載されています.

2 予稿集用原稿の作成

投稿された PDF 原稿ファイルをそのまま USB メモリに収録して予稿集を作製します. また, 原稿の著作権は, 電子情報通信学会に帰属します. シンポジウム Web サイト (<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2016/>) に掲載してある注意事項を厳守して, PDF 原稿を作成して下さい.

2.1 様式

- サイズ A4 判 (縦 297mm, 横 210mm)
- 論文題目, 著者名, あらまし, 本文等全てを含み最大 6 頁
- 論文題目が英文の場合は, 前置詞と冠詞を除き, 単語ごとに一文字目は大文字
- 印刷時の上余白 25mm 以上, 下余白 20mm 以上, 左右余白 17mm 以上
- 2 段組, 10pt 程度の文字
- PDF ファイル容量 3MB 以下

SITA2016 原稿の L^AT_EX スタイルファイルおよび Word 用テンプレートが, SITA2016 ホームページ

<http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2016/>

より入手できます.

2.2 ヘッダ

PDF 原稿の第一頁において, 上余白 9mm(以上) 右余白 9mm(以上) あけ, 7pt 程度の文字で

The 39th Symposium on Information Theory
and its Applications (SITA2016)
Takayama, Gifu, Japan, Dec. 13–16, 2016

* 〒 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学工学部電気電子・情報工学科, Department of Electrical, Electronic and Computer Engineering, Faculty of Engineering, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu City, 501-1193, Japan. E-mail: sita-2016@mail.ieice.org

と記入して下さい. 第二頁以降にヘッダは不要です. スタイルファイルを使用している場合, このヘッダは自動的に挿入されます.

2.3 第一頁に記載する事項

第一頁に次の事項を記載してください.

1. 本文が和文のとき

- 論文題目 (和文と英文の両方)
- 著者名 (和文と英文の両方)
- 著者の所属, 所在地 (和文と英文の両方)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

なお, 和文のあらましとキーワードは必要ありません.

2. 本文が英文のとき

- 論文題目 (英文)
- 著者名 (英文)
- 著者の所属, 所在地 (英文)
- あらまし (約 100 語の英文)
- キーワード (英文で 3~5 個)

2.4 カラー, 写真について

SITA2016 予稿集は, USB メモリで発行しますので, カラー (写真) の使用も可です. ただし, 白黒印刷をして利用することも考えられますので, 白黒印刷でも内容の把握が可能であるようご配慮ください.

3 論文投稿方法について

原稿は PDF ファイルでご用意下さい. 論文原稿は発表申込専用サイトで受け付けます (SITA2016 ホームページ <http://www.ieice.org/ess/sita/SITA2016/> よりリンクが張ってあります).

論文投稿システムに関するお問合せは,

sita-2016-submit@mail.ieice.org

までお願い致します.

3.1 注意事項

原稿が指定の様式を満たしていることを確認して下さい. なるべく複数のシステムで PDF 原稿が閲覧・印刷できることを確認しておくことと確実です.

文献

- [1] SITA2015 Secretariat, “How to write a SITA2015 manuscript,” The 38th Symposium on Information Theory and its Applications, 2015.